当院における廃棄血削減のための取り組み

◎柿崎 翔平[1)]、大森 洋子[1)]、和嶋 和子[1)]、高橋 裕美[1)]、佐藤 浩太郎[1)]
鶴岡市立荘内病院[1)]

【はじめに】山形県は血液製剤の廃棄率が高い傾向にあり、2010 年度の調査では全国でワーストワンという結果になった。これを受け山形県合同輸血療法委員会では廃棄血削減に向けて精力的に取り組んでいる。当院における取り組みと今後の課題を報告する。

【方法】1.O 型 RBC 院内在庫の削減：2009 年～2017 年において使用した超緊急 O 型 RBC の件数を調べ、1 件毎の O 型 RBC の使用単位数から適切な院内在庫数を検討した。

2.RBC の払い出し方法の変更：入院棟へ払い出した RBC が患者の容態変化などにより室温放置され廃棄になるケースが増加したため、RBC の払い出し方法を見直した。輸血直前の払い出しを徹底し、直ちに使用しない場合は検査科に返却するよう周知した。また看護師を対象に血液製剤の取り扱いについてアンケート調査を実施した。

【結果】1.O 型 RBC 院内在庫の削減：輸血療法委員会で RBC の院内在庫削減を提案し協議したところ、院内在庫は 10 単位から 6 単位となった。2018 年度より運用を開始したが O 型 RBC の廃棄は生じていない。超緊急 O 型 RBC の使用にも問題なく対応できている。

2.RBC の払い出し方法の変更：払い出し方法変更後、室温放置による RBC の廃棄は著明に減少している。

【まとめ】O 型 RBC 院内在庫の削減および RBC の払い出し方法の変更は廃棄血削減に効果的であることがわかった。O 型 RBC の在庫削減を可能にしたのは RBC の供給の早さであると考えられた。当院では発注から納品までに要する時間は 30 分程度であり、超緊急 O 型 RBC 使用時の同型血への切り換えを速やかに行うことができる。一方、2018 年度は O 型 RBC の廃棄はなくなったが AB 型 RBC の廃棄が目立った。これは緊急手術時に依頼された RBC が期限切れとなったケースがほとんどであり、輸血療法委員会では「患者の救命を考慮すると仕方ない」という結論に至った。対策については現在模索中である。アンケート調査の結果からは看護師の血液製剤の取り扱いについて現状を知ることができたので今後の廃棄血削減の取り組みに役立てたい。

連絡先　0235-26-5111　中央検査科　内線 3331